

## 令和3年度 第1回庄原市総合教育会議 議事録

日 時：令和3年6月10日（木） 10時00分開会

場 所：庄原市役所本庁5階 第1委員会室

出席者：【構成員】

木山耕三市長 末信丈夫教育委員  
横山和明教育委員 神本久美教育委員 立花有佐教育委員

【事務局】

加藤武徳企画振興部長 片山祐子教育部長  
東 健治企画振興部企画課長 亀山慎也教育部教育総務課長  
高淵直哉教育部教育指導課学事係長

【議事進行】

木山耕三市長

欠席者：なし

傍聴人：20名

### 1. 開会

### 2. 市長あいさつ

### 3. 議題

(1) 庄原市立学校適正規模・適正配置基本計画について

#### ●意見交換

(市長)

適正配置計画は、第1グループ、第2グループ、第3グループと順を追って取り組むこととなっている。現時点で、第1グループでは統合できていない学校があり、第2グループは、コロナ禍で説明が遅れ、十分な議論ができていない状況にある。

第1グループ、第2グループの小学校の適正配置について、保護者、子供たちの意見をしっかりと聞き、子供たちが喜んで通える環境を整えるために、保護者・地域と十分に協議してほしいと考えている。このことについて、皆さんから意見をいただきたい。

(末信委員)

第1グループで統合した学校だが、当初は反対意見とか、不安に思うような意見が出されたと聞いているが、保護者や地域の方々と十分協議する中で、理解していただき進めることができたと聞いている。保護者や地域の方々のご理解ご協力に感謝したいと思う。

(立花委員)

私も第1グループでは、保護者や地域の方々とは協議をし、理解をしていただいた上で、進めることが出来たと思う。

また、どちらの保護者の方々にとっても、子供たちが喜んで学校に行くことが出来る状況を作るためには、十分な協議があってこそだと思うので、第2グループについても、コロナ禍で協議することが難しい中だが、そのことをしっかりと理解していただくために協議をするということを念頭に置いて、取り組んでいきたいと委員全員が思っている。

(神本委員)

私も第1グループの保護者や地域の方のご理解、ご協力に本当に感謝している。4月に統合した第1グループの学校の授業を見て、子供たちが喜んで授業を受けている姿を見ることが出来た。保護者の方や地域の方にご理解、ご協力をいただいているおかげだと感じた。

第2グループの適正配置についても、保護者や地域の方のご理解ご協力が必ず得られるような取り組みをしていかないといけないと強く思った。

(横山委員)

平成28年に庄原市の市立小中学校の適正規模・適正配置についての提言をまとめていただき、それを基に現在の適正規模・適正配置が教育委員会で決定をされたわけだが、その提言の中でいろんなご意見をいただいた。

まず教育委員会としては、今後の時代に向けて、どのような教育環境が適切なのかを念頭に置きながら、計画を立てた。その中で、私たち教育委員は毎年学校訪問をして授業を観させていただき、やはり小規模の学校で複式学級が多いことについて、教育の観点から言えば、今後の学習指導要領に沿っていく中で複式の解消が大事ではないかという結論を見出し、それを盛り込んだ形で適正配置計画を策定した。

一方で、地域の問題については、教育委員会において、地域の意見を住民に聞きながら、どういう考えをお持ちなのか、地域としてはどういう立場なのか、保護者の皆さまはどういう思いをお持ちなのかを聞きながら、第1グループを進めてきたと思っている。教育的な観点から進めなければいけないと思う部分と、地域においての位置づけも当然考慮しなければいけないが、第1グループの中には話し合いに至らない学校も1校ある。

今年の4月から新しい学校の統合が進んだ現状を考えると、やはり地域、保護者ともども、計画を進めるべきでないとする立場の地域においては、当然進めることはできないという現実もあるように思う。

適正配置計画の中で、年次スケジュールをお示ししているが、平成から始まり令和2年度末をもって、第1グループの適正配置を行い、令和2年度から第2グループの説明をし、令和4年度で計画を終了するというスケジュールについては、第2グループにおいても、非常に難しい面があるのではないかとこの認識を私は持っている。スケジュールが独り歩きし、計画ありきになっているのではないかと感じている。

地域との協議がまとまらなければ適正配置は進まないのです。スケジュールについては、まず協議、話し合いにより理解を進めていく観点からも、見直し、再検討していく姿勢が必要ではないかと感じている。

(市長)

統合を進める中で、不安があるということについて、子供たちはこれまで通っていた学校に愛着があり、それが変わるとなれば不安がある。親とすればもっと不安がある。また地域の中には学校がなくなるという不安がある。

しかし、基本に置いてきたのが、子供たちにしっかりとした教育環境を整えていくことが望ましいという点であり、そのためにしっかりと協議を深めていこうという姿勢だった。協議を熱心にしていただいて、子供たちの不安も解消した中で、新しい環境をスタートしたということは大変喜ばしいところであるが、まだ、地域の不安や反対がぬぐえていないので、そ

れには時間をしっかりとって、最終的には、統合に至らない場合でも、納得いくよう、時間を作ることが必要だと考えている。

後ほど中学校の話も出るが、第1、第2グループもスケジュールありきでなく、計画を見直していただきたい。何のためにこれを進めていくのかと言えば、より良い教育環境づくりのためである。そこを納得してもらえるまでは、時間は十分とられても結構だと思っている。ぜひともこのスケジュールの見直しについても、議論いただければと思うが、いかがか。

(末信委員)

子供たちの教育、将来をどう考えるかという点では、計画の日程うんぬんではなく、教育委員会でも、地域を含め、しっかり理解がされるような話し合いを続けていきたいと思う。

(市長)

環境が変わり、心配していた子供たちが、登校も楽しく、授業も楽しく受けてくれているというのは、皆さま方の努力の結果だと思う。これが目的であり、皆さま方に感謝したい。

第1、第2グループの小学校の適正配置については、これからも保護者、地域、子供たちと、十分に時間をかけて取り組んでいただきたい。そのために、スケジュールの見直しもありうるということで、また協議を進めていただきたい。

それでは、第1、第2グループについての意見交換は、以上でよろしいか。

(委員全員)

はい。

(市長)

次に中学校の適正配置について、意見交換を行いたい。まずは、私から考え方を述べさせていただきます。

中学校の適正配置は、現在のところ、保護者・地域の皆さん方へ説明がされていない。しかし、地域の中、議会もそうだが、統合に対する不安や懸念の議論が先行している。まだ、しっかりとした考え方、説明がされていない中で、もういいんだと、もう説明しなくていいという話まで出ている。

しかし、生徒、保護者、地域にまずは説明をさせていただき、それから考え方も擦り合わせていくということが前提となる。その意味でも、今後は、保護者や地域の意見をしっかりと聞いていかなければならないと考えている。そのためには、現在のスケジュールでは十分に時間があるとは思えない。しっかりと意見を聞くためにも十分な時間をとっていただきたいと思っている。

それを踏まえ、皆さんにお願いをするが、現在の中学校の適正配置計画を見直す必要があると言わせていただく。そのためには、計画のスケジュールは決まっているが、これについても延期をしていただきたい。

これは、第1、第2グループについても、スケジュールのことに言及をされて、見直しの考えが皆さんの中にあるということとを共有したので、ぜひとも中学校の適正配置を見直し、そして期間も延期が必要という考えを示させていただきます。これについてご意見をいただければと思う。

(末信委員)

中学校ではまだ説明会が出来ていない。各学校では人数が少なくなっているものの、地域

とつながりを持ち、地域の支援を受けながら充実した学習をしようと、そういう学校は是非とも存続してほしいという思いがあると思うし、そのほかの件でもいろいろご心配はあろうかと思うが、現状において、適正配置といわれても、うん分かったという状況にはないと思う。

しかし、私が学校に勤めているとき、一つの学年が2人というクラスがあった。英語の授業にしても体育の授業にしても、男女一人ずつの2人。大変しんどい授業であった。指導する方もそうだが、受ける方も大変しんどかったと思う。

結果的には、統合していったわけだが、そういう状況になったとき、子供たちの将来の教育をどう考えていくかならば、お互い議論し合っ、知恵を絞り合うようなことも必要になると思う。それらも含めて、計画があるからということでそれに従って進めていくということは、全く考えていないし、そうあるべきではないと思う。

(立花委員)

先ほど話に出たスケジュール表ですが、見られた市民の皆さんや地域の皆さんが不安に感じられたというのは、地域を越えての統合で、特に不安だと思ったのが、冬季の気象状況。冬場の地域を越えての通学についても、大雪になるのではないかと不安がある。

私たちも皆さんの懸念を聞き、十分に冬場を経験されている地域の方たち、保護者の方たちと協議を重ねていく必要があるのではないかと、こういう声を聴くのが一番大切なことなのではないかと思う。

なかなかコロナ禍で話し合いは出来ないと思うが、冬場の通学に対する不安について、市長も言われたが、見直しか延期ということを念頭に入れて、協議を重ねていく方が良いのではないかと思っている。

(神本委員)

中学校の娘を持つ保護者の立場として、中学校と小学校で何が違うかということ、高校入試がある。その先の将来を子供たちが考えていくためには、大切な3年間だと思う。

適正配置計画を検討していた時期と比べて、高校入試の制度が大きく変わっているし、職場体験など、子供たちが自分の将来とか人生を考えていくために必要である学校行事というのが、コロナ禍の影響で中止になったり、制約を受けている状況にある。そういった変化がある状況の中、さらに中学校も統合となれば、子供の負担が大きいのではないかと思う。

(横山委員)

皆さんが言われるように、当然そういう必要が生じてくるように思うし、市長の提案を当然のように受け止めたいと思う。

第3グループの中学校は、当初予定から一番最後に取り掛かる予定になっている。最初に第1グループ、第2グループ小学校の適正配置がスケジュールにあった。というのが、この計画を作る段階において、なるべく複式を解消したいという思いから、第1グループから優先で、次に第2グループ。ただ、第2グループになってくると随分学校の児童数についても、ばらつきがある。そうなれば、まず、地域との協議、保護者との協議を重ねていかなければいけないところだが、市長の言われるように第3グループの計画の説明が行われていない中学校において、先行していろんな意見が出ており、第2グループの理解を得るための取り組みが非常にやりにくいという状況にある。

そうなってくると、まずは、第2グループに時間をかける。スケジュールというのとはとりあえず外してでも、時間をかけ説明し、理解を得ていく。そしてどういう形が望ましいのかということで、新たな形があればそれを模索していく。それに時間をかけるためにも中学校のスケジュールについては、やはり延期をされるべきである。また、中学校に関して言えば、立花委員が言われたように冬季の通学の問題もあるし、もっと言えば、合併前の旧市町の域を越えての学校適正配置というものが、いろんな問題をはらんでいるのではないだろうか。そういった思いもあるので、第3グループの中学校の見直しについては、市長が提案されるように、教育委員会においても前向きに積極的に議論したいと思っている。

(立花委員)

やはり第3グループについては、皆さんに不安を与えているということで、見直していく必要があると私も思う。前向きに教育委員会で議論していきたい。

(市長)

まず、中学校の統合の方向性について、議論が始まったのは議会だと思う。それは、第1、第2グループの状況を説明する中で、中学校も議論になり、その時にまだ説明をしていない、まだまとめ上げていない部分もあったのではないかと思う。本来は、交通のことであったり、子供たちの気持ちはどうするのかなど、聞く方は様々な意見を投げて、答えを返してもらいたいが、その答えの準備が私は足らなかったのではないかと思う。

本来なら、もっと早く、仮定でもいいから第1、第2グループの話もしながら第3グループの心づもりとかを持っておかないといけなかったが十分に出来ていない。それが一層、聞く方からすれば、中学校の統合については、不安が募るばかりという状況になったのではなかろうか。

だから、もう一度皆さん方に、教育環境をしっかりと整えていくという目的があるので、何が何でもということではないということの説明して、理解してもらわなければならない。学校の統合が最終的な目的ではない。子供たちがどういう学校環境を選ぶか、時間を持って事務局の方も、問いかけにしっかりと答えられるような準備をする必要があると思っている。

私からは重ねて、とにかく計画の見直しをして欲しい。しかし、庄原の中にもいろんな中学校があるので、今クラスに数人という中学校も現実にある。水面下ではあるが、早く統合してもらいたいという意見もある。だが、そこだけを早くということにはならないと思う。

そういう意見も皆さん方には聞いていただいて、スケジュールありきではなくて、どのように環境を整えてあげればいいのかということを議論していただければと思う。慎重に進めていかなければならない。

その他ご意見はいかがか。

それでは、第3グループの中学校の適正配置計画の延期を含めた見直しは、保護者・地域の意見を聴いて、十分に協議を重ねていく必要があるということ、多くの意見を聴くことに力を注ぐということで、皆さん方からも同じようにご意見をいただいたので、教育委員会でこれから協議をされ、この方向でしっかりと議論をいただくということでよろしいか。

(委員全員)

はい。

(市長)

それでは、本日の意見交換の主題であります「庄原市立学校適正規模・適正配置基本計画について」のまとめをさせていただきます。

話の中にもあったように、小学校についても中学校についても、複式学級や極小規模という状況もあるが、子供たちの状況及び推移を見極めながら、保護者、地域と十分に時間をかけて子供の教育環境のことを考えながら、適正配置に取り組んでいただきたいと考えている。

そして、中学校の適正配置については、計画の見直しについてしっかり協議をいただきたいと考えている。

本日は、教育委員会の皆さまから直接計画に対する思いを、第1、第2、第3グループのスケジュールも含めて、これほど深く協議出来たことは今までなかった。この時期に意見交換できたことは非常に良かったと思う。これから子供たちの教育環境をより一層充実していくためにも、我々の役割は重要だと思っているので、子供、保護者、地域の皆さんの理解がしっかり得られるように取り組みを進めていきたいと思う。そのためにも十分に時間をとっていただいて、協議をしていきたいと思うので、以上をまとめとする。このまとめについて、何かご意見、補足等があれば。

(神本委員)

同じことの繰り返しになるが、計画の中で統合のスケジュールが出されているが、それにとられることなく、一番は、保護者の方と地域の方に十分に理解をいただくこと。それが子供たちにとっても一番大切なことだと思うので、そういった取り組みをしていきたいと思う。

(横山委員)

教育委員会としては、教育的な観点から学校の適正配置を計画し、推進してきている。なぜ適正配置計画が必要なのか、ということの理解を得る努力をしていかなければいけないと思う。その中で、地域の問題とか、いろんな教育委員会だけでは捉えられないような問題も当然あるかと思うが、それらも含め、協議を進めていくことが必要だと思うし、スケジュールはあくまで一つの目安として、スケジュールに縛られず、理解が得られる、そして、学校、地域、保護者にとって、納得出来る形の適正配置が実現できるよう努力をし、力を尽くしたいと教育委員会としては思っている。

(立花委員)

同じことの繰り返しになるが、学校の適正配置が目的ではなく、児童生徒の教育環境をより一層充実させるということで進めていく。これには地域と保護者の方の理解があってこそで、特に不安な点にもっとももっと耳を傾けて、協議を重ねることが必要である。

不安なことを広めてしまったということ振り返り、今後はそういうことがないようにしたい。これを反省材料として持ち帰り、それぞれの立場から意見を発し、集約し、議論を重ね、より良い適正配置計画になるようにしていきたいと思う。

(末信委員)

今後教育委員会としての計画の日程の延長、あるいは見直しも含めてしっかり議論していきたいと思う。

(市長)

先ほどご意見をいただいたように適正配置が目的ではない。ただ、教育環境をさらに整えていこうとすると皆さんのお気持ちでは適正配置の方が好ましいという状況もあるかもしれないが、適正配置が前提ではないということについて、また今後も地域団体、子供たちに対して計画を打ち進めるという気持ちはないということ、皆さんに理解してもらい、取り組んでいく必要がある。

今回のように途中で見直しや、スケジュールを変えていこうということは、これまでなかったことなので、このことは市民の皆さまにもしっかり理解していただき、また考える時間もとっていただければと思う。教育委員会で重ねての協議を強く求める。よろしくお願ひしたい。

それでは、「庄原市立学校適正規模・適正配置基本計画について」は、以上とする。

#### 4. その他意見交換

(市長)

自由に発言いただきたい。

(末信委員)

新型コロナウイルス感染症の収束が見通せない中、学校現場では、教職員も子供たちも、日々、感染拡大防止のために頑張っている。特に教職員は消毒したり、今までなかったような配慮が必要になり、いろいろ苦労している現状がある。子供たちも新しい生活様式の中で、感染しないように注意しながらやっているが、特に思い出に残る修学旅行や運動会など、行事が出来なくなったり、延長、規模縮小したりと制限を受ける中で、学校で感染が広がらないように一生懸命頑張っている。これからも市の方で配慮、ご支援いただきたい。

(市長)

修学旅行に行けず、卒業される子供さんもいるのか。

(教育部長)

昨年の話だが、本来小学校は、一泊二日程度の修学旅行を行うところだが、宿泊ができないということで県内への日帰りなど工夫して、何らかの体験は出来た。例年のように二日かけて行くことは、どの学校でも行えたかというところではない。

(市長)

一応の修学旅行的なものは出来たということだが、子供たちが大きくなる中で、コロナにより、修学旅行も日帰りしか経験出来なかったが、それを経験した子供たちが将来親になって、子供たちを見たときに、自分の時はコロナ禍で苦しんだが、あなたたちは健康で修学旅行でもしっかり楽しくやってほしいといった、指導的な大人になってもらいたい。残念なことであるが、そう望むしかない。

ワクチンも65歳以上の希望者については、だいたい確保出来ているということで報道があった。新聞にも接種率が大変高いということで、これは庄原市がやってきた医療福祉ネットワーク(医療の関係者と地域、振興区など皆さん方が各町で医療であったり、介護で見守りをしようというようなシステム)があるが、今回は医師会の先生方に協力をいただいて、診療所も、地域も市役所も出て、まさに地域包括ケアの形を作った結果だと感じている。しっかり頑張ってくれたと思う。高い評価をいただいている。コロナが収まるということを期

待している。

その他は、よろしいか。

(委員全員)

はい。

(市長)

それでは、市民の皆様に新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止にご理解とご協力をいただきながら、この体制をしっかり取っていきたいと思っている。

また、緊急事態宣言が延長され、引き続き、学校現場も含め、様々な行動の自粛をお願いしているところだが、今が、感染拡大に歯止めをかけるために頑張らねばならないときなので、皆さま方のご理解とご協力をいただきながら、また学校の皆さま方にもしっかりとご協力をいただいて、コロナを乗り越えたいと思っている。

重ねて中学校の問題、これから協議をしていただくが、今日傍聴においでの方も教育委員会の皆さま方も、変更に向けて取り組むというその考えを直に聞いていただいたということで、本当に意義のある会になったと思う。本日はありがとうございました。

**5. 閉 会**     10時55分